The Molecular Biology Society of Japan
MBSJ NEWS
日本分子生物学会
会報
2014.11
No.109

目　次

■ 理事長からのメッセージ（2014 年晩夏）—— 1
■ 第 19 期理事選挙結果について —— 3
■ 平成 27 年度（第 37 回）通常総会のご案内 —— 4
■ 第 4 回 富澤基金贈呈式のご案内 —— 5
■ 第 37 回（2014 年）日本分子生物学会年会　開催のお知らせ（その 3 ）– 6
■ 研究倫理フォーラム 開催のお知らせ —— 8
■ 市民公開講座「生命に迫るサイエンス＆アートの新たな挑戦」のご案内 — 8
■ 高校などへの講師派遣事業および年会での高校生発表について —— 9
■ 日本分子生物学会キャラクターデザイン決定のお知らせ —— 9
■ キャリアパス委員会主催　ランチョンセミナー 2014 —— 10
— 博士の多様なキャリアパスを切り開く —
■ キャリアパス委員会主催　キャリアパスセミナー 2014 —— 10
池上彰と考える — これでいいのか日本の生命科学研究 —
■ キャリアパス委員会報告 —— 11
■ キャリアパス対談　第 5 回：佐藤　健×柳田素子 —— 12
■ 第 5 回（2015 年）日本分子生物学会 若手研究助成募集のお知らせ — 15
■ 第 4 回（2016 年）日本分子生物学会 国際会議支援募集のお知らせ — 17
■ 国際会議支援システム利用について —— 18
■ 学術賞、研究助成の本学会推薦について —— 19
■ 第 18 期役員・幹事・各委員会名簿 —— 20
■ 賛助会員芳名 —— 21

MBSJ
特定非営利活動法人
日本分子生物学会
http://www.mbsj.jp/

第37回
日本分子生物学会年会

The 37th Annual Meeting of the Molecular Biology Society of Japan

会　期　**2014年11月25日(火) ～ 27日(木)**

年会長　**小安 重夫** (理化学研究所統合生命医科学研究センター)

会　場　**パシフィコ横浜**

演題投稿受付期間　**2014年7月1日(火) ― 7月31日(木)**

事前参加登録期間　**2014年7月1日(火) ― 9月30日(火)**

連絡先　第37回日本分子生物学会年会事務局 (株式会社エー・イー企画 内)
〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-4-4 岩波書店一ツ橋別館4F
Tel:03-3230-2744 Fax:03-3230-2479 E-mail:mbsj2014@aeplan.co.jp

大会HP　**http://www.aeplan.co.jp/mbsj2014**

MBSJ

理事長からのメッセージ（2014 年晩夏）

ロイヤル・ソサエティに学ぶ科学と社会の在り方

残暑お見舞い申し上げます。

季節ごとに会員の皆様宛にメッセージをお送りして、これで 7 つ目ですが、前回、4 月末から 8 月までの間も目まぐるしい展開がありました。

まず 8 月 1 日付で、東京大学から分子細胞生物学研究所関係の論文不正に関する調査報告（第一次）が発表され（http://www.u-tokyo.ac.jp/public/public01_260801_j.html）、元当学会理事であった加藤茂明博士含む 4 名の不正行為が認定されました。これまで、当学会では加藤博士自身が論文不正予防のための啓発活動にも関わっていたことも踏まえ、研究不正への対応について活動を進めて参りました。本件のすみやかな解明を求めてすでに平成 24 年 11 月および平成 25 年 8 月に東京大学宛に要望書を送って来ましたので、このたびの東京大学からの第一次報告は、大きな一歩と考えます。165 報という膨大な数の論文の調査ならびに裁定の審議に当たられた方々のたいへんなご尽力には、最大の敬意を払います。一方で、平成 24 年 1 月に不正についての疑義が告発され、研究所内での予備調査の後、平成 25 年 9 月から徹底的な本調査が開始、同年 12 月に中間報告が行われ、その報告に基づいた第一次裁定が今般為されたというように、長い時間がかかったことは、論文不正問題の取り扱いに関して多くの問題が残っていると考えています。

その直後、8 月 5 日に本学会員であった笹井芳樹博士が自らの命を断ったという痛ましい知らせが飛び込んできました。ご遺族および関係者の方々には心からお悔やみ申し上げます。また、もっとも身近な CDB の方々におかれましては、動揺も大きいことと拝察いたしますが、くれぐれもこれまで以上に良いサイエンスを続けて頂ければと願っています。Web 上には各種の憶測など取り沙汰されていますが、その中で、あたかも本学会が笹井博士を追い込んだ、というような批判につきましては、まったく不当なものであると申し上げておきたいと思います。本学会 web ページ上に発出されている要望等において、個人を対象として述べたものは一切ありません。また、7 月末の TV 報道に関して、本学会の立場で関わったというようなこともありません。

日本分子生物学会は来年から第 19 期となりますが、先日、新理事の方々が選挙によって選ばれました。科学と社会が近づいて来た今日、学会が抱える問題はこれまでよりも多岐にわたります。18 期から 19 期に上手く引き継ぎをしたいと思います。

＊＊＊＊＊

科学と社会の関係について、最近、経験したことをご紹介します。

7 月初旬、2 つの国際会議の間の日程でロンドンを訪問し、初めてロイヤル・ソサエティの行事に参加してきました。ちょうどサマー・サイエンス・イグジビションという毎年恒例の行事が開催されているところで、それに付随して行われる「ソワレ（夜会）」に行ってみない？」というお誘いをフェローである Prof. Veronica van Heyningen 先生から頂いたからでした。ロイヤル・ソサエティは英国のアカデミーとして最高峰であり、さしずめ日本なら学士院なのでしょうか。フェローの方は女王より勲章が授与されます。ロンドン中心部ピカデリーにあるバーリントン・ハウスという 17 世紀に建てられた建物には、ロイヤル・ソサエティ歴代の方々のポートレート写真や肖像画が多数、飾ってありました。近代科学を率いてきたという自負を表しているのでしょう。個人的には、哺乳類胚操作に関する業績により日本国際賞を共同受賞された Anne McLaren 博士がマウスとともに描かれた肖像画を拝見して、お顔を懐かしく思い出しました。その後、Gail Martin 博士と Martin Evans 博士らの ES 細胞の樹立に繋がるお仕事をされた方です。X 線結晶構造解析でノーベル化学賞を受賞された Dorothy Hodgkin 博士のポートレートもありました。

サマー･サイエンス･イグジビションは､ロイヤル･ソサエティ創立 1768 年の翌年から､毎年欠かさずに会長主催で(！)開催されている科学に関する市民向け公開展示です。詳細についてはヴィジュアルな web 頁がありますので、そちらをご覧頂ければと思います(http://sse.royalsociety.org/2014)。このような催しの伝統が 18 世紀にまで遡るというのは、英国ならではと思います。燕尾服やドレスに身を包んだ紳士淑女が、物珍しそうに展示を見ている様子を表した絵なども飾ってありました。その流れが、ドレスコードとして「ブラックタイ」着用という、Veronica 曰く「Very British!」なソワレとして残っているという訳です。ソワレはお料理がビュッフェの着席スタイルで、フェローの方々の同窓会のような雰囲気でした。ちょうど季節の苺のクリームが、プラスチックの試験管のようなものに入っていたのが科学展示イベント的で面白かったです。

科学の営みの意義やその成果を市民に伝えるのは、容易なことではありません。科学を伝えるのは、必ずしも科学者だけではなく、初等中等高等教育に関わる教員の方、各種メディアの記事や著書を書かれるサイエンス・ライターの方なども重要です。とくに、科学がどんどん細分化され深化していくと、最先端の発見を子どもたちや一般の方々に理解して頂くのは大変､骨が折れるものです。「正確さとわかりやすさ」のバランスをどのあたりに求めるか､プレス･リリースを出す立場になると毎回、悩ましい思いをします。

科学のサポーターや応援団を増やすには、日頃の努力が欠かせません。私たちの科学研究のかなりの部分が税金をもとにした国の研究費で支えられている現状を鑑みれば、このことは科学者側が普段から気にしておく必要があります。このような活動は、一見、科学の発展を進めるのに関係ないように思われがちですが、平時の備えが疑似科学を防いだり、研究費配分などに影響を与えたりするのだと思います。

さて、今月の初めには今年の横浜年会の演題登録が締め切られました。今年は例年よりも早め、11 月末の開催です。サイエンスについて議論を深めるミーティングにしたいと年会長の小安先生が仰っておられました。
皆様、奮って横浜へ！

2014 年 8 月
特定非営利活動法人　日本分子生物学会　第 18 期理事長
（東北大学大学院医学系研究科）
大隅　典子

第 19 期理事選挙結果のご報告

2014 年 11 月

会員各位

特定非営利活動法人　日本分子生物学会

過日、実施されました、第 19 期理事選挙につきまして、以下の通りに投票結果をご報告いたします。（第 19 期理事の任期は 2015 年 1 月から 2016 年 12 月までの 2 年間です）

○選挙公示日　2014 年 6 月 11 日㈬（会報 108 号発送）
○投 票 期 間　2014 年 6 月 23 日㈪　9：30 ～ 7 月 11 日㈮　17：00
○開　票　日　2014 年 7 月 15 日㈫
○開 票 場 所　日本分子生物学会事務局
○開票立会人　第 19 期理事選挙・選挙管理委員会（金井正美 委員長、塩見春彦 委員、白髭克彦 委員）
○有 権 者 数　12,612 名
○投 票 者 数　1,091 名
○投 票 総 数　10,910 票（うち白票 3,525 票）

○当　選　者（50 音順）

荒木　弘之（遺伝研）
一條　秀憲（東大・薬）
上村　　匡（京大・生命）
大隅　良典（東工大・フロンティア研究機構）
岡田　清孝（自然科学研究機構 / 龍谷大・農研）
貝淵　弘三（名大・医）
影山龍一郎（京大・ウイルス研）
粂　　昭苑（熊本大・発生研）
小林　武彦（遺伝研）
小安　重夫（理研・IMS）
斎藤　通紀（京大・医）
相賀裕美子（遺伝研）
佐々木裕之（九大・生医研）
塩見　春彦（慶應大・医）
塩見美喜子（東大・理）
篠原　　彰（阪大・蛋白研）
白髭　克彦（東大・分生研）
眞貝　洋一（理研・和光）
杉本亜砂子（東北大・生命）
高橋　淑子（京大・理）
田畑　哲之（かずさ DNA 研）
仲野　　徹（阪大・医 / 生命機能）
長田　重一（京大・医）
林　　茂生（理研・CDB）
深水　昭吉（筑波大・生命領域学際研究 C）
水島　　昇（東大・医）
山本　正幸（基生研）
吉田　　稔（理研・和光）
吉村　昭彦（慶應大・医）
渡邊　嘉典（東大・分生研）

以上 30 名

● 本選挙において、当選者の中から 2 名の理事就任辞退者が出ました。「理事選挙に関する選挙管理委員会内規」に基づき、選挙管理委員長と現理事長で協議を行い、その結果、次点者を繰上げ当選としました。ご報告します。

○第 19 期理事長選任について

2014 年 9 月 20 日、東京で開催されました第 19 期新理事会準備会議において、荒木弘之氏（国立遺伝学研究所･教授）が第 19 期理事長（任期：2015 年 1 月より 2 年間）に選出されましたので、ご報告いたします。

平成 27 年度（第 37 回）通常総会のご案内

平成 26 年 11 月

会員各位

特定非営利活動法人 日本分子生物学会
理事長　大隅　典子

以下の要領で第 37 回通常総会を開催しますので、お知らせいたします。

昨年同様に“開かれた”総会を目指し、ポスター討論直後の展示会場内に特設会場を設置して開催いたします。新しい会員種別の新設（定款変更）等、重要な議案をお諮りしますので、多くの会員のご出席をお願い申し上げます。

ご存知のように、本学会は 2007 年に特定非営利活動法人となり、重要な案件は総会で決定されます。総会成立には、正会員＋名誉会員の 1/2 以上の出席（委任状を含む）が必要となりますので、会員皆様の積極的なご参加をお願いいたします。

なお、総会案内通知および出欠はがき（委任状）は、新年度の会費請求書にも同封して発送（10 月下旬）しています。ご都合がつかない場合には、必ず、委任状をご提出くださるようお願いいたします。

記

日　　時：平成 26 年 11 月 26 日㈬　19：15 ～ 20：15

≪総会終了後、第 4 回富澤基金贈呈式が行われます≫

場　　所：ポスター・展示会場内 特設会場（パシフィコ横浜 展示ホール）

予定議題：

1）経過報告（理事長報告、庶務報告、編集報告、その他）

2）26 年度（2014 年度）決算承認の件

3）27 年度（2015 年度）活動予算書承認の件

4）定款変更の件

①シニア会員の新設

ご定年を迎えられた 65 歳以上の正会員（会員歴通算 20 年以上）で常勤職に就かれていない方を対象に、年度会費を学生会員と同額（3,000 円）とし、さらに年会には無料で参加できるといった新しい会員種別『シニア会員』の新設をお諮りします。手続きは自己申請制、運用は新年度からの適用を予定しています。

②次世代教育会員の新設

小・中・高等学校の教員またはこれに準ずる方を対象とした『次世代教育会員』新設を提案します。同会員は、入会金・年度会費は正会員と同額ですが、年会に無料で参加できるといった新しい会員種別です。

③休会制度について

本学会には今まで休会の制度がなく、海外留学の際は、海外在住先に刊行物等を送付し会員を継続いただくか、もしくは一旦退会手続きをしてもらい帰国後に再入会いただく、といった対応を行ってきました。

今後は、海外留学のみならず、出産・育児等を理由に学会活動を一定のあいだ休止される会員をも考慮した休会制度案（休会期間中の会費の免除）をお諮りします。詳細は総会当日の配布資料にてご説明いたします。

④定款変更　第 11 条　除名について

本件につき、理事会で検討しました結果、今後、重大な事由により会員の除名を行うことが生じた場合に備え、規則を整備しておくべきとの結論に至りました。

以下の定款変更をお諮りします。

≪特定非営利活動法人 日本分子生物学会 定款≫

第 11 条（除名）

※下線部分の変更をお諮りします。

―現行―

第11条　会員が次の各号の一に該当する場合には、総会の議決により、これを除名することができる。

⑴　この定款に違反したとき。

⑵　この法人の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき。

2　前項の規定により会員を除名しようとする場合は、議決の前に当該会員に弁明の機会を与えなければならない。

―変更案―

第11条　会員が次の各号の一に該当する場合には、理事会の議決により、これを除名することができる。

以下同文

定款変更の詳細は総会資料にてご報告いたします。

定款変更の文言等を含め、事前に、専門家（行政書士）の事前確認を取っておりますことをお知らせします。本会の、特定非営利活動法人の法人認証所管は東京都（都知事）です。

※総会会場にて軽食（サンドウィッチ・ジュース）をご用意いたします。
（先着順 / 数に限りがありますこと、ご了承ください）

※総会出欠票はがき（委任状）は、本会報ならびに新年度会費請求書の両方に同封しておりますので、いずれかでご返送ください。

第4回富澤基金贈呈式のご案内

「富澤純一・桂子 基金」による第 4 回（2014 年）日本分子生物学会若手研究助成の贈呈式を下記の要領により開催します。多くの方々のご参加をお願いいたします。

理事長　大隅　典子
基金運営委員会委員長　山本　正幸

日　　時：平成 26 年 11 月 26 日㈬　20：15（総会終了後）～ 20：45 予定
場　　所：パシフィコ横浜 展示ホール（ポスター・展示会場）特設会場

第４回助成者：

木下奈都子（筑波大学生命環境系 / 申請時の所属は The Rockefeller University）
濱田–川口　典子（東北大学大学院生命科学研究科）
水本　公大（Stanford University / 2015 年 1 月より The University of British Columbia に赴任予定）
宮成　悠介（自然科学研究機構 岡崎統合バイオサイエンスセンター）

第 37 回（2014 年）日本分子生物学会年会　開催のお知らせ（その 3）

会　　期：2014 年 11 月 25 日㈫～ 27 日㈭
会　　場：パシフィコ横浜
年　会　長：小安　重夫（理化学研究所統合生命医科学研究センター）
年会事務局連絡先：第 37 回日本分子生物学会年会事務局
〒 101–0003　東京都千代田区一ツ橋 2–4–4　岩波書店一ツ橋別館 4 階
Tel：03–3230–2744　Fax：03–3230–2479 E-mail：mbsj2014@aeplan.co.jp
URL：http://www.aeplan.co.jp/mbsj2014

※年会開催の詳細は同封のプログラム集をご参照ください。

【プログラム】

シンポジウム
ワークショップ
ポスター
フォーラム
CSHA session: Frontiers in Computational Biology
バイオテクノロジーセミナー
市民公開講座「生命に迫るサイエンス＆アートの新たな挑戦」
キャリアパス委員会企画
学会企画 研究倫理フォーラム
高校生研究発表
機器・試薬・書籍等附設展示会
特別企画「ナショナルバイオリソースプロジェクト（NBRP）」（展示）
「使ってみようバイオデータベース（NBDC）」（展示）

【参加登録に関するご案内】

○参加登録手続きについて

事前参加登録は 9 月 30 日㈫に締め切りました。以降の参加登録受付は年会当日に会場で行います。なお、オンライン上で登録を行った場合でも、10 月 3 日㈮までに参加登録費を振り込んでいない場合は、事前参加登録は無効ですので、当日参加登録を行ってください。

事前参加登録者には 11 月初旬頃、参加章（名札）を送付いたしますので、年会当日は参加章を着用のうえ、そのまま会場へご入場ください。参加章を着用していない方の入場は固くお断りいたします（11 月 27 日㈭市民公開講座を除く）。

○参加登録受付窓口

窓　口	場　　所	時　　間	内　　容
第 1 受付	会議センター 2 階	8：00 ～ 18：00	当日参加登録・総合案内 学会入会（学会事務局デスク）・ 宿泊案内（トラベルデスク）
第 2 受付	展示ホール 1 階	8：00 ～ 18：00	当日参加登録のみ

○当日参加登録費

正会員	学生会員	非会員	学部学生
10,500 円（不課税）	6,500 円（不課税）	13,500 円（税込） ※プログラム集含む	学生証提示により無料 ※院生は対象外

※支払方法は現金、またはクレジットカード（VISA、MasterCard のみ）となります。

【オンラインプログラム検索・要旨閲覧システム／アプリ】

○講演要旨集はオンライン化し、印刷物や CD-ROM を作成しません。なお、今年はオンラインプログラム検索・要旨閲覧システムに加えて、初めてアプリ版（iOS、Android）の要旨集を導入しましたので、オフラインでも快適にプログラムや要旨を閲覧いただけます。

○年会ホームページの「オンラインプログラム検索・要旨閲覧システム」からプログラムの閲覧・検索・ダウンロードをすることができます。また、App Store、Google Play より無料でアプリをダウンロードできます（App Store、もしくは Google Play を起動し「mbsj2014」で検索、「第 37 回日本分子生物学会年会」アプリをインストールしてください）。

「オンラインプログラム検索･要旨閲覧システム」へのアクセスはこちらから
年会ホームページ　http://www.aeplan.co.jp/mbsj2014/
※ 2014 年 11 月 7 日㈮より公開予定。
年会終了後、2015 年 3 月末にシステムを閉鎖します。

○講演要旨の閲覧・ダウンロードには年会事務局が発行する ID とパスワードが必要です。事前参加登録者には、閲覧用の ID とパスワードをメールでお知らせいたします。また、参加章にも印字して送付いたします。

○事前参加未登録者は、講演要旨を閲覧・ダウンロードすることはできません。プログラム検索のみ利用可能です。年会会場で当日参加登録を行った方には、その場で閲覧用の ID とパスワードが発行されます。

○年会会場では無線 LAN をご用意いたしますので、ご自身の PC、タブレット、スマートフォン等を用いてオンラインプログラム検索･要旨閲覧システムをご利用ください。なお、今年のシステムは、フィーチャーフォン（ガラケー）には対応しておりません。ご了承ください。

○年会に参加せず、オンラインプログラム検索・要旨閲覧システム／アプリの ID、パスワード購入をご希望の方は、会員の場合は 3,000 円、非会員の場合は 10,000 円（いずれも税込）にて承ります。年会事務局までメールにてお申し込みください（mbsj2014@aeplan.co.jp）。

○会期中、下記の通りオンラインプログラム検索・要旨閲覧システム／アプリのご案内デスクを設置します。ご不明な点など、お気軽にお尋ねください。

オンラインプログラム検索・要旨閲覧システム／アプリご案内デスク
場　　所：会議センター 2 階
開設日時：11 月 25 日㈫～ 27 日㈭　8：00 ～ 16：00

研究倫理フォーラム 開催のお知らせ

学会企画 特定非営利活動法人 日本分子生物学会 研究倫理フォーラムを下記の要領で開催いたします。
プログラム内容は決まり次第、第 37 回年会および学会ホームページにてお知らせします。

日　時：2014 年 11 月 25 日㈫　19：15 ～ 20：45（予定）
会　場：パシフィコ横浜 会議センター 3 階 301（第 2 会場）

第 37 回日本分子生物学会年会 次世代育成事業
市民公開講座「生命に迫るサイエンス＆アートの新たな挑戦」のご案内

「生命」は学問の対象であるだけでなく，古来芸術の対象であり続けてきました。急速に生命科学が展開する中、現代のアートやデザインはどのように生命を捉えなおし、描き出そうとしているのでしょうか。生命科学とアートの境界領域の最前線にいる研究者・美術作家たちが熱く語ります。

主　催：特定非営利活動法人 日本分子生物学会
共　催：横浜市
日　時：2014 年 11 月 27 日㈭　19：00 ～ 20：30
会　場：パシフィコ横浜 会議センター 3 階 301（第 2 会場）
参加費：無　料
登壇者：奈良島知行　サイエンスイラストレーター／ Tane+1 LLC 主宰
岩崎　秀雄　生物学者・造形作家／ metaPhorest（生命美学プラットフォーム）主宰、早稲田大学 教授
福原　志保　バイオデザイナー／ BCL. ハーバード大学医学大学院 客員研究員、早稲田大学理工学術院 嘱託研究員
ほか

また、会期を通じてサイエンス＆アート作品の展示を行います。

会　期：2014 年 11 月 25 日㈫～ 27 日㈭　8：00 ～ 19：00
会　場：パシフィコ横浜 展示ホール 1 階　A + B + C
metaPhorest 主催：バイオメディアアート、生命美学の世界
〈出展者〉AKI INOMATA、BCL（福原志保、Georg Tremmel、吉岡裕記）、Goh Uozumi、Juan M. Castro、
石塚千晃、石橋友也、岩崎秀雄、齋藤帆奈

サイアート・ネットワーク主催：サイエンス・アートの世界
〈出展者〉奈良島知行、ジョンズ・ホプキンス大学、トロント大学
〈出展協力〉有賀雅奈、菅　徳子、ほか

高校などへの講師派遣事業および年会での高校生発表について

分子生物学会では、ライフサイエンス系で最大規模の学会である社会的な責任を鑑み、これからの日本の未来を背負う若者への分子生物学の普及・教育を念頭に、高校などへの講師派遣事業をおこなっています。

この事業は、高校生物学の教科書が大幅に改訂され、分子生物学を1つの大きな柱とした内容の授業が開始したことを受け、現場を担当する教師の方々と本学会が分子生物学に関する新しい情報の共有を目指したもので、講師候補として166名（2014年10月1日現在）の方に登録して頂き、これまでに17回（2014年9月現在）の出前講義を実施してきました。

しかし、分子生物学が幅広い生物学の領域を扱い、かつ、日進月歩の学問領域であり日々情報が変わっていくといった、他の理系科目とは異なる側面を持っていながら、講師の登録が少ない地域や専門分野がみられる状況にあります。（SSHなど国から予算を得ているところ以外には）“無料”で会員を派遣する事業ですので、大変恐縮ながら交通費は原則会員個人のご負担となりますが、勤務地や住所地の近傍など交通費が最少になる地域でマッチングするなどの工夫をして効果をあげたいと考えています。是非、講師派遣事業へのご理解とご協力をお願いします。講師としてお申し出を頂ける方は、事務局まで連絡をお願いします。お知り合いの高校教員や一般の方で、出前授業などの講師を探している方がいらっしゃいましたら本事業をお知らせください。

また、今年で3回目となる高校生による口頭・ポスター発表を年会最終日の11月27日㈭16：15～18：15にパシフィコ横浜の展示ホールでおこないます。興味のある方は未来の分子生物学を担う高校生との交流を図り、激励の言葉をかけて頂ければ幸いです。

本事業の具体的な活動については以下のURLを参照してください。

【日本分子生物学会－生命科学教育】
http://www.mbsj.jp/activity/education.html

第18期理事（生命科学教育担当）篠原　彰

日本分子生物学会キャラクターデザイン決定のお知らせ

第18期理事長　大隅　典子
生命科学教育担当理事　篠原　彰

会報第107号（2014年2月号）、学会ホームページ、一般のデザイン関連公募情報サイトにて公募していたキャラクターデザインには、総計259点におよぶ多数の作品をご応募いただきました。会員・非会員、プロ・アマを問わず「中高生にとっても親しみやすく、分子生物学に興味を持つきっかけになるような」ものをと募ったところ、職業・年代いずれも幅広い方々が作品をお寄せくださいました。

キャラクターデザインの選考は、当初学会執行部で行う予定でしたが、応募が多数となりましたため、第36回（2013年）年会アート企画を担当された先生方など学会関係者数名にもご協力をいただいて候補作品29点を選定し、2014年4月24日～5月9日までの期間で会員による電子投票を実施しました。さらに、2年前から出展しているSSH（スーパーサイエンスハイスクール）生徒研究発表会（2014年8月6日～7日）の学会ブースへ立ち寄られた高校生の皆様にも投票をしていただきました。

その結果、会員投票で1位となった作品と、学生会員の支持を集め、かつ高校生に最も人気だった作品の2点を、学会公式キャラクターとすることになりました。キャラクターについての詳細は学会ホームページをご覧ください。

採用されたデザインは、グッズや印刷物、学会ホームページなどで利用する予定です。

会員の皆様には、ご応募くださいましたこと、また投票にご協力いただきましたことに、厚くお礼申し上げます。

〈選考委員〉
理 事 長　大隅　典子
庶務幹事　本間美和子
広報幹事　荒木　弘之、金井　正美
生命科学教育担当理事　篠原　彰

キャリアパス委員会主催　ランチョンセミナー 2014

― 博士の多様なキャリアパスを切り開く ―

日　時：2014 年 11 月 26 日㈬　11：45 ～ 13：00
会　場：パシフィコ横浜
　　会議センター 3 階 301（第 2 会場）
司　会：キャリアパス委員　岩崎　渉（東京大学大学院理学系研究科）

●講演 1：谷澤　欣則
（日本イーライリリー株式会社 研究開発 / 医学科学本部）
「博士号は民間企業でも有用か？ ～大学のキャリア支援を活用した Ph.D. からの報告～」

●講演 2：森　　典華
（名古屋大学社会貢献人材育成本部 ビジネス人材育成センター）
「博士が社会で多彩に活躍！ ～大学で博士人材のキャリア支援をしてきた立場から～」

●ケータイをつかった聴衆参加型ディスカッション with キャリアパス委員
井関祥子（医科歯科大・医歯）、佐藤　健（群馬大・生調研）、塩見美喜子（委員長 / 東大・理）、東山哲也（名大・ITbM）、柳田素子（京大・医）

※会場の皆様にはご自身の携帯電話・スマートフォンから専用サイトへアクセスしていただき、ご意見を前方スクリーンにリアルタイム表示する「ケータイアナライズシステム」を導入します。

分子生物学会キャリアパス委員会は、以前の若手教育問題ワーキンググループおよび男女共同参画委員会の流れを汲むかたちで今期より新たに発足した委員会です。本委員会の狙いは、若手を取り巻く問題や男女共同参画を取り巻く問題をより包括的な視点から共有し、考え、一丸となって解決策を求めることにあります。発足二年目にあたる本年度の年会でも、キャリアパス委員会主催のセミナーを年会 2 日目および 3 日目に開催致します。このうち年会 2 日目（11 月 26 日）は、「博士の多様なキャリアパスを切り開く」と題し、海外でのポスドク経験の後に民間企業へ就職、複数の企業にわたってキャリアを構築されてきた日本イーライリリー株式会社の谷澤欣則氏、そして、多くの大学院生・ポスドクのキャリアパスに関するサポートを活発に推進し、多くの成功例を導かれてきた名古屋大学社会貢献人材育成本部の森典華先生に御講演を頂きます。講演後は、キャリアパス委員 6 名を含め、ケータイをつかった聴衆参加型ディスカッション形式で意見交換を行い、博士の多様なキャリアパスの切り開き方を聴衆の皆様と共に探りたいと思います。一筋縄ではいかないテーマではありますが、自分自身の経験に基づいた講演と多くの経験に基づいた講演の双方により、ポジティブな展望を描く機会となれば幸いです。皆様のご参加をお待ちしています。

※ランチョンセミナー当日の午前 8 時より、バイテクセミナー整理券引換デスク（パシフィコ横浜　会議センター 1 階　第 1 クローク横）にて『参加整理券』を発券します。

キャリアパス委員会主催　キャリアパスセミナー 2014

池上彰と考える
― これでいいのか日本の生命科学研究 ―

日　時：2014 年 11 月 27 日㈭　11：45 ～ 13：00
会　場：パシフィコ横浜
　　会議センター 1 階メインホール（第 1 会場）
コーディネーター：池上　　彰（東京工業大学リベラルアーツセンター教授）

●パネルディスカッション with キャリアパス委員
石井　優（阪大・医）、小野弥子（都医学研）、五島剛太（名大・理）、小林武彦（遺伝研）、斎藤通紀（京大・医）、白髭克彦（東大・分生研）

※本セッションで取り上げてほしいテーマを＜ cp2014@mbsj.jp ＞までお寄せください。
※本セッションはランチョンセミナーではありません。会場内での飲食は禁止です。

研究者の多くは、誠実に自然の真理と向き合い、その解明に向かって日々努力し着実に成果を上げています。一方でほんの一部ではありますが、社会問題化している STAP 騒動をはじめとし、研究・論文不正は後を絶ちません。ひとたび不正問題が起こるとたくさんの研究者が巻き込まれ、研究以外のことに多くの時間を使い、さらには新たな規則ができ、研究の効率とモチベーションを著しく低下させます。不正問題によるもっとも重大なダメージは、尊重し協力し合うべき研究者が不信と疑念を抱き、研究に必須である「創造的な空気」が汚染されてしまうことです。また不正問題に加えて、ポスドクのキャリアパスが少なすぎるという問題も同様に研究者社会に暗い陰を落としています。

より研究しやすい、また若者が夢を抱いて参入できる研究者社会を作るためには、個人として、組織として、研究者コミュニティーとして、今何が必要なのでしょうか？池上彰氏をコーディネーターに迎えて一緒に考えましょう。

キャリアパス委員会報告

1．第 37 回日本分子生物学会年会に関連して

ⅰ）演題発表者の属性調査について

今年も年会の演題登録ページに属性調査項目を設定し、研究者の属性に関するアンケートを行いました。ご回答くださった皆様、ありがとうございました。現在、結果の集計を進めております。分析結果はポスターにまとめ、年会会場に掲示し、学会 HP でご報告いたします。

ⅱ）年会託児室の利用について

分子生物学会の年会に初めて託児室が設置されてから、10 年あまりが経ちました。年会託児室も利用者の要望にあわせて、サービスの向上に取り組んでいます。今年の年会では、託児室への要望などのご意見をいただくため、利用者の方に年会開催後 E-mail でアンケートを行うことにいたしました。ご協力をどうかよろしくお願いいたします。

2．大規模アンケート分析結果の報告について

第 3 回科学技術系専門職の男女共同参画実態調査（通称：大規模アンケート）は、男女共同参画学協会連絡会（http://www.djrenrakukai.org/）主催により、2012 年 11 月 1 日から同年 12 月 14 日の期間において、回答者各人が上記 Web サイトにアクセスしてアンケート項目（質問 1 ～ 46）に回答するという形式により実施されました。

分子生物学会は第 12 期（2002 年）に「男女共同参画ワーキンググループ」を設け、そして第 14 期（2005 年）には「男女共同参画委員会」に昇格、第 18 期発足時（2013 年）には「若手教育問題ワーキンググループ」と合体し「キャリアパス委員会」へと様変わりしたものの、通算すると 12 年にわたり会員の男女共同参画の環境作りと意識向上を目指し様々な取り組みを行なってきていますが、これをさらに推進しつつ男女共に満足度の高い研究環境を整備するためには、未だ残存する課題を充分に理解し、その原因を明らかにするとともに改善策を講じる必要があります。そのため、キャリアパス委員会は、上記大規模アンケートから分子生物学会会員の回答のみを抽出、そして分析するという作業をすすめてきました。大規模アンケートの生データからの必要な情報の抽出および図表化と予備的な分析は外部委託し、得られた図表の詳細な分析、考察、および最終的な明文化作業はキャリアパス委員を中心に行いました。

報告書は学会 HP で公開いたします（11 月中旬予定）。また、冊子体をご希望の方は学会事務局までご連絡ください（部数には限りがあります）。

3. 男女共同参画学協会連絡会報告

「女子中高生夏の学校 2014 ～科学・技術・人との出会い～」（8 月 7 日～ 9 日）について

このイベントは、国立女性教育会館が主催となり、女子中高生に、科学技術の世界の楽しさや活躍する女性たちの生き方の魅力に触れ、科学技術に関心のある仲間や先輩と知り合うこと、を目的として開催されており、男女共同参画学協会連絡会もその企画・運営に協力しています。今年は、全国から 112 名の女子中高生、29 名の保護者・教員が参加しました。

分子生物学会では、毎年、実験企画への出展やポスター掲示、理系進路に進んだ先輩と交流するキャリア相談ブースの設置などを通じてイベントへ協力しております。今年は以下の実験とポスター・キャリア相談ブースを出展しました。

〈実　験〉
- コンピュータで探るバイオ分子の世界：西方公郎（理化学研究所）
- 線虫を使って知る遺伝子のしくみ：梁瀬澄乃（大東文化大学）
- 病気を科学しよう－遺伝暗号に隠された秘密：横倉隆和（沖縄科学技術大学院大学）

〈ポスター・キャリア相談ブース〉
- ポスター：Give & Take! ～ゾウリムシとクロレラの共進化～：今村　綾（長浜バイオ大学）
- キャリア相談ブース：蓑田亜希子（理化学研究所）

今年も昨年に引き続き、夏の学校へ協力を全会員に呼びかけ、有志の方にご協力いただきました。募集の際は、多くのお申し出をいただき、誠にありがとうございました。今後も中高生へ分子生物学の魅力を伝えること、また、理系進路選択の支援を続けていきたいと考えています。ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

キャリアパス委員会 委員長　塩見美喜子

キャリアパス対談　第５回：佐藤　健×柳田素子

委　員：佐藤　健（群馬大・生調研）、
　　柳田素子（京大・医）
日　時：2014 年 8 月 29 日㈮　14：30 ～ 16：30
場　所：東京八重洲ホール

【佐藤】キャリアパス対談も第 5 回となり、これまでのテーマと内容が重ならないようにと考えていたのですが、あえて肩の力を抜いて（笑）、自分はどうして今研究をしているのか、そのあたりのことを掘り起こしてみたいと思います。柳田先生、今日はお願いします。

【柳田】佐藤先生、こちらこそよろしくお願いします。キャリアパス委員の先生方とはいつもフランクにお話させていただいていますが、会合ではやはり年会の企画などが中心になりますので、今日はいつもと違う視点でお話できたらいいなと思っています。

【佐藤】はい、そうしましょう。
　臨床医でもある柳田先生ですが、先生はどうして基礎へ進もうと思ったのですか？　特別な現象を目の当たりにしたとか、何かきっかけがあったのでしょうか？

【柳田】医療の場においてはガイドラインや診療マニュアルなどが数多く存在しますが、では誰が診療しても同じかというとそうではなく、その方が診たら腎不全への進行が明らかに遅いという「名医」がいらっしゃいます。当時研修医だった私は現代科学では未だ解明されていない何らかの現象があるのではと思いましたが、それが言語化、一般化されていないと感じていました。
　この名医のようになるにはよほど経験を積んだり、勘が良くないといけないのでしょうけれど、私にはその自信がなかったんですね。だから、勘が良くない私はその現象の言語化を目指すのがいいのかな。そう考えたのがきっかけでした。

【佐藤】なるほど。基礎研究というひとつの言語化によって社会でその情報が共有され、またそこからの進展があることで臨床の現場にも言語が持ち込まれることになりますからね。その後、なにか実践的な場面において言語化について感じたことはありますか？

【柳田】全く別の分野のお話なのですが、料理人の方とお会いしたときのことです。かつては、「俺のやっているとおりにやれ」といった業界のならわしのようなものがあったそうです（笑）。でも、いまでは世界中に日本食が認められているので、むしろ日本食を世界に紹介していかなくてはならない。グローバルに展開するにはわかりやすく数値化する必要があると。
　例えば、出汁には何パーセントの塩分が美味しいとか、水の硬度や加熱する温度、マグネシウムが大きく関係する見た目の色、引き上げるタイミングなど、数値化は可能だということを教わりました。これは当然、マネされてしまうリスクを承知のうえでの取り組みなのですが、こういう考え方を医療でも応用できたらいいなと思いました。

【佐藤】一般化という視点ですね。高い目標ですが、私たち研究者が社会へ還元すべきひとつの成果といえるでしょう。

【柳田】そうなんです。だからこそ私は生命現象に注目し、それを言語化して、例えば名医の診療が誰でも可能にしたくて大学院へ進みました。
　佐藤先生はどのように研究の世界へ入られたのですか？

【佐藤】大学 3、4 年の頃から、ラボに入ったばかりの私を先生や大学院生の先輩がよく居酒屋へ連れ出してくれたのですが、お酒を飲みながらサイエンスの話をしていると、未解明の生命現象にドンドン興味が湧いて、なんだかすごく楽しかったんです。細胞の中にあるひとつひとつが独自のアイデンティティーを持っていて、なんで小胞体は小胞体なのか、ゴルジ体はゴルジ体なのか、物質がいかに生命を保っているか、そういうかなり基礎的なところからのめり込んでいきました（笑）。
　ラボが変わっても、皆で切磋琢磨する緊張感のある環境でしたから、誰よりも早くこの現象の秘密を知りたい、

そんな風に思えたのでしょうね。その後は生物を変えながらいまに至ります。

【柳田】佐藤先生のように、学生の頃から同じテーマに取り組んできて、長く研究が続けられるスタイルにはすごく憧れます。やはり、時代の変化や流行もありますし、軸をしっかり保つのは大変なことなのだと思いますから、連続性のあるお仕事は本当に素晴らしいですね。

【佐藤】優秀な人ならとっくに解決しているのかもしれませんが（笑）。

大きなファクターとしては、指導していただいた先生方やラボの仲間達にめぐまれてきたということがあるでしょうね。研究室はひとつのファミリーとはいえ、もとは知らぬ者同士。お互いに関心があって、ある程度のことが言い合えるようでないといけません。お互いの関心が維持されていれば、誰かがおかしなことをしてもまわりが気付くじゃないですか。性格や個性は違いがあって当然ですから、PI はそのための環境をつくり、常にフェアであることが重要だと思います。

【柳田】おっしゃるとおりですね。お互いがお互いの研究に興味があって関与しあっていると、よい緊張感と適度な競争が生まれるのだと思います。

ただ、ある程度のプレッシャーは適切に働くと思うのですが、過度のプレッシャーは思考を停止させ、モチベーションを下げてしまうように思います。今は PI 自身が競争にさらされているので、大変な面もありますけれど、できれば PI も含めて、ラボ全体が unexpected に対する期待というか、予期しなかった何かが起きたとき、むしろ楽しむ余裕を持っていたいと思います。私たち人間が想定できることには限界がありますし、想定できることは他の誰かも研究しているかもしれませんから、かえって激しい競争があるかもしれません。でも想定外の事実が見つかったとき、これまでにないストーリーが生まれる可能性があると思うのです。

【佐藤】確かに研究を進めていると自分たちの想定するデータと違う結果がでることが結構ありますよね。その時点では作業仮説とあわない場合でもそのまま論文に載せることにしています。後々、その“違いこそ”が実は正解であることがわかったり、新しい現象を捉えていたりすることがままあります。想定と実験事実がずれたときには、そこに何か秘密が潜んでいるかもしれない、そこから新しい切り口が見えてくもしれないチャンスでもあるわけです。ストーリー先行ではなく、目の前の wet な実験から出てきた結果に素直であるべきですね。たとえ自身が想定したストーリーと違っていても、現実で起きている事実と向き合うのが研究者の真骨頂です。

【柳田】そうですね。ストーリーに合わないデータや現象も含めてむしろ公に提示しておくことが大切ではないかと思っています。その実験を行った時点でのテクノロジーの限界も認めて、その時点ではその現象の意味付けはできなかったとしても、進歩したテクノロジーでは違った解釈が説明できるようになるかもしれないですから。

10 年くらい前でしたか、システムバイオロジーやバイオインフォマティクスが発展すると wet の実験がなくなるんじゃないか、あるいはシステムバイオロジーで出された仮説を検証する役割になってくるのではないかと言われましたが、実際そうはなっていないですよね。

それは、想定内と想定外の事象があるからじゃないかと思います。wet をやっていることで、想定外の現象を発見するチャンスがありますし、それが面白いのだと思います。

【佐藤】なるほど。ところで最近、なにか新しい生命現象をみつけても、あまりトップジャーナルに相手にされなくなっている気がしませんか？「なんだ、現象を見つけただけじゃないか」と（苦笑）。

【柳田】私もすごく感じます（笑）。

個人的には、生命現象を見つけることは新しい分子を見つけるのと同じくらい大事なことではないかと思います。分子を見つけた時点ではその分子にどれほどのインパクトがあるかはまだわかりませんし、その後かなり検証を積まなければ分からない。

でも例えば腎臓病の進行度の違いを説明できるような生命現象を見つけて、それが色々な方面から確かめられたとしたら、その現象が存在しているのは間違いないと思うのです。短期的にそのメカニズムをどこまで解明できるかは分からないけれども、その生命現象を世の中に提示することで他の誰かが分子メカニズムを明らかにしてくれるかもしれない。それが大事だと思います。

【佐藤】はい、現象論だと言われても、その第一歩がなければ何も始まりません。若手にはそういうパワーを見せてもらいたいですね。リスクの大きい小さな一歩でも、氷の海へ最初に飛び込む一羽のペンギンのようになってほしいです。自分がそれを最初に見つけたんだと言えるんですから。

【柳田】それこそが若手のモチベーションを上げるひとつの答えでもあると思います。自分の観察から新しい現象を見つけたときの喜びは何事にも代えがたいものですから。自分の観察を重要にして、それを検証しつつ、誇りを持って、自分の疑問に立ち向かっていってほしいと思います。

私は独立してちょうど10年目ですが、ようやくラボ内でサイエンティフィックコミュニケーションがとれるようになってきたかなと思っています。お互いを認めて、それぞれの持っているツールやスキルを共有して補い合い教え合い、ディスカッションも活発になってきました。

それともうひとつ、自分がPIになると、自分がいかに恩師や医学部にいらした先生方にお世話になってきたかが、痛いほどよくわかってきました。思い返せば、自分が研究生活に迷うたびごとに、恩師や先生方に助けていただいてきました。自分の講座の教授にはもちろんのこと、違う講座の先生方にもいつも親身に相談に乗っていただき、本質的なアドバイスをいただいていました。自分もそうでなくてはいけないと思いますが、自分の講座のことや目の前のことで精一杯で、それではいけないなあ、と反省しています。

【佐藤】私が学部生のときお世話になった恩師は、いまでも必ず年賀状を送って下さいます。当時は「20代のうちは死ぬ気で頑張りなさい」と発破をかけられましたし、30代になってからは「ここからが本当の勝負だよ」というメッセージを送り続けてくれました。そして今、私のデスクから叱咤激励してくれているのは、「ここからが独創的な研究をやるときです」です。

卒研生として1年足らずお世話になっただけの私に今でも関心を持って頂けるのですから、本当にありがたいことです。自分がしていただいたことを若手にどうしてあげられるか、私にとって「レジェンド」となる先生方は今でもそれを教えてくれているのだと思います。

【柳田】そうですね。数あるラボから選んでくれたのですから、この一期一会を大事にしたいですね。学位が取れてよかったねということだけではなくて、ひとりひとりに深く関わって、研究生活をやってみて良かったと思ってほしいと思います。佐藤先生、今日はありがとうございました。

Keep moving forward!

第５回（2015 年）日本分子生物学会 若手研究助成募集のお知らせ

本学会は、2010 年に富澤純一博士と故・桂子夫人のご厚意を受け、「日本分子生物学会 若手研究助成 富澤純一・桂子 基金」を立ち上げ、2011 年度より若手研究助成事業を開始いたしました。

当基金の目的とするところは、分子生物学、あるいはさらに広く生命科学の新しい展開を目指す研究を志しながらも、研究費の欠乏や生活上の制約のために十分に力を発揮できていない若手研究者に、使途を限定しない助成を行って、研究の発展を可能にさせることです。使途を限らない本助成の特色を活用した、創意に富んだ研究推進提案を歓迎いたします。

2015 年度も以下のように募集いたします。助成をご希望の方は、下記の応募要項に従って奮ってご応募ください。

特定非営利活動法人 日本分子生物学会
第 18 期理事長　大隅　典子
「日本分子生物学会 若手研究助成 富澤純一・桂子 基金」
第 1 期基金運営委員長　山本　正幸

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【応募要項】

1．研究助成金の趣旨

分子生物学に関連する生命科学の基礎的な領域において独創的な研究を行い、将来の発展を期待し得る若手研究者に対して、「日本分子生物学会 若手研究助成 富澤純一・桂子 基金」に基づいて助成します。選考に当たっては、本助成がその方の研究の発展にどれだけ効果的に寄与できるかという観点にも配慮します。

2．助成金額

助成金額は、一人 300 万円。年度ごとの助成人数は 5 名。再度の応募を妨げません。

（2011 年から 2020 年の 10 年間で総額 1 億 5000 万円を助成予定）

3．応募資格

⑴　分子生物学に関連する生命科学の基礎的な領域において独創的な研究を行い、将来の発展を期待し得る 39 歳以下（＊ 1975 年 1 月 1 日以降に生まれた人）の若手研究者を対象とします。ただし、研究経歴において特別な事情がある場合は 39 歳を超えていても応募を受け付けます。

⑵　日本分子生物学会会員・非会員は問いません。

⑶　申請者の単独研究、または申請者が中心になって行っている共同研究を対象とします。

4．研究助成金の使途、ならびに会計処理

⑴　研究推進に関係することであれば、使途は限定しません（例えば研究時間を確保するためのベビーシッター費用、海外留学費用なども可）。

⑵　本助成金は直接研究費以外にも自由度をもって使用できるものとします。そのために、原則、研究助成金は一時所得扱いとし、学会が源泉徴収を行います（50 万円を超える、250 万円につき 10％の源泉徴収（※＋若干の復興特別所得税が加算されます）を行います。分子生物学会が支払い調書を発行します。＊海外からの申請は下記にご留意ください）。

＊海外に長く滞在の場合、ビザの種類にかかわらず日本国税法区分では「非居住者の一時所得扱い」となります。この場合、いずれの国においても、助成金 300 万円のうち 50 万円を超える 250 万円に対して 20％を源泉徴収（※＋若干の復興特別所得税が加算されます）しなければなりませんので、ご留意ください。ご不明な点は事務局までお問い合わせください。

⑶　助成金の全額または一部を所属研究機関の委任経理金扱いにされたい場合は対応しますので、お申し出ください。この場合、当該部分に対する源泉徴収はありません。ただし本助成から間接経費の負担は行いません。

5．応募方法

申請書は、分子生物学会ホームページからダウンロードして使用してください。

⑴　最初に、第５回（2015 年）日本分子生物学会 若手研究助成 申請サイトへアクセスし、所定の内容を送信してください。

⑵　申請書（電子データ /PDF ファイル形式で最大 10 ページ以内に収めてください）と論文別刷（3 篇以内の電子データ /PDF ファイル）を添付ファイルの形で、kenkyujosei@mbsj.jp へメール送信してください。

⑴⑵の手続きは、その順番どおりに手配を行い、必ず締切日までに 2 点の手続きを完了するようにしてください。

事務局の資料確認・照合の都合上、⑴⑵の手続きは 2 日以内を目安に完了してください。（申請書、論文別刷ともに、提出いただくのは電子データのみです。

オリジナルの郵送は必要ありません。）

＊注意　ホームページ内に設置されます上記の「申請サイト」は、応募受付開始日より、その運用を開始します。

6．応募受付期間と締切日時

●応募受付期間：2015 年 1 月 13 日㈫ 9：30
～ 2 月 10 日㈫ 17：00

●締　切　日　時：2015 年 2 月 10 日㈫ 17：00
（時間厳守）

7．選考方法

基金運営委員会が選考に当たります。一次書類審査の後、ヒアリングを実施し、その結果により、採択者を決定します。

ヒアリングは 2015 年 5 月を予定しており、応募者本人がヒアリングに出席することを原則としますのでご留意ください。

なお、「日本分子生物学会 若手研究助成 富澤純一・桂子 基金」基金運営委員会は 2015 年 1 月より第 2 期の委員会に移行し、約半数の委員が交代します。委員会構成は決まり次第、学会 HP でお知らせいたします。

8．研究助成金の交付

2015 年 6 月までに指定銀行口座に送金予定です。

委任経理金にする場合は、各大学等で定められている取扱い規定、その手続きにより交付します。

9．贈呈式

第 5 回研究助成対象者については、原則として、2015 年 12 月の第 38 回日本分子生物学会年会（神戸、BMB2015 合同大会）における富澤基金贈呈式（総会）への出席を要請します。

10．研究成果公表

本助成金を使用した研究成果を、学術雑誌等に公表する場合は、「日本分子生物学会 若手研究助成 富澤純一・桂子 基金」（Tomizawa Jun-ichi & Keiko Fund of Molecular Biology Society of Japan for Young Scientist）から助成を受けた旨を明記してください。また、同刊行物の別刷等を 1 部、本学会事務局へ提出してください。

11．研究成果および会計報告

⑴　本助成金受領者は、助成金を受領した翌々年の 5 月末までに、研究成果と会計報告の概要を、「日本分子生物学会 若手研究助成 富澤純一・桂子 基金」基金運営委員会あてに提出してください。様式は問いません（一時所得扱いの受領者は、会計報告に際して、領収書の提出は不要です．使途の一覧を提出ください）。

⑵　本研究助成の贈呈対象者として、相応しくない行為があった場合には、助成金の返還を求めることがあります。

（※応募要項 11．については若干変更される予定です。決まり次第、学会 HP でお知らせいたします。）

12．本研究助成の趣旨に賛同し、基金への拠金をお考えくださる方は、分子生物学会事務局気付・基金運営委員会までお申し出ください。

＊その他

有志の方々へ

分子生物学の振興に向けた、各種基金のご寄付をお考えの方がおられましたら、是非ともご連絡ください。日本分子生物学会が責任を持って対応･運用いたします。

〒 102-0072　東京都千代田区飯田橋 2-11-5
人材開発ビル 4 階
特定非営利活動法人 日本分子生物学会
「日本分子生物学会 若手研究助成 富澤純一・桂子 基金」
基金運営委員会
TEL：03-3556-9600　FAX：03-3556-9611
E-mail：kenkyujosei@mbsj.jp

第４回（2016 年）日本分子生物学会 国際会議支援募集のお知らせ

日本分子生物学会では、昨年に続き、2016 年（2016 年 1 月～ 12 月）に開催計画のある国際会議に対しまして支援事業（開催補助金の助成）を行いますので、ここにお知らせいたします。

科学のグローバル化が進む一方で、国際会議を通しての情報の交換は科学の大きな必須手段の 1 つとなっています。しかし、日本で開催される質の高い国際会議の数は増えていない状況があります。また、関連分野の最新の研究に若い時から接することは優秀な研究者を育てる上で要の 1 つと考えられます。本支援は、日本（あるいはアジア）発の originality の高い国際会議を育て、若手研究者をサポートすること、日本発の研究を世界に向けて発信する場を設けることを目的として立ち上げられました。

本国際会議支援（開催補助金の助成）を希望される方は、下記の要項に従って、奮ってご応募ください。

特定非営利活動法人 日本分子生物学会
理事長　大隅　典子

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

■募集要件

1．テーマ：分子生物学の分野ならどのような分野でも可－新しい領域、外国では見受けられないユニークなテーマが望ましい。

2．開催規模:参加人数は 50 名以上 200 名程度までとし、そのうち外国からの参加者が少なくとも 20％程度いること、さらに口頭発表者の中で外国人が 3 割以上を占めることが望ましい。

3．開催の形式：

1）分子生物学会会員が主催者あるいは共同主催者であること。教育・研究機関の主催、研究費主催のものは除きます。（組織委員（国内）については、できるだけ本学会への入会を推奨します）

2）共催:他の団体との共催は可とするが、その場合、参加費に関して分子生物学会会員価格（特に学生会員を考慮されたい）が設定されていることが望ましい。

4．留意事項：

1）できる限り、国内の若手研究者の口頭発表の機会を作ることが望ましい。

2）本学会年会のサテライト会議（年会会期前後または近い時期での開催．開催場所は問わない .）とすることが望まれるが、他の時期・場所での開催も可能である。

3）会議開催に際しては、分子生物学会が用意している支援システム（JTB 西日本による国際会議トータル支援システムを長期契約のもとに割安価格で使用）、①基本システム代金：23 万円（事前参加登録受付・演題投稿受付・カード決済等の基本システム設定）、②オプション / メイン HP 代金:25 万円（全体デザイン・ページレイアウト・サーバ管理 12 ケ月・更新メンテナンス 12 ケ月）、③オプション / オンライン査読システム：8 万円、④オプションその他、のうち　基本システム①を必ず使用することを応募条件とします。

4）支援が決定した後は、主催者は各種の報告書・広報ポスター・国際会議 HP 等に本学会からの支援を受けて開催されることを、表示する義務を負うものとします。

5）採択された場合には、会議終了後、開催責任者にミーティングレポートを執筆いただきます。学会誌「Genes to Cells」に掲載しますことをご了解ください。

6）残金が出た場合、補助金の返還を求めることがあります。

■開催補助金と件数

援助する金額は、一件あたり 200 万円～ 300 万円。年間 2 ～ 3 件。開催期間・参加予定人数によって金額の変動あり。学術振興会の国際会議等の大型支援を助成された場合は多少の減額あり。

（補助金の使用用途は限定せず自由度を持つものとします。他経費で補えないものが望ましい。ただし国際会議終了後、本学会への会計報告（収支決算書概要）提出の義務を有します。また、分子生物学会から支援を受けたことを、HP、要旨集などに明記いただきます。）

■応募方法

申請書は、分子生物学会ホームページからダウンロードして使用してください。

所定の申請書に、国際会議の目的、形態、予定講演者、おおよその予算規模と使用用途等を記載し、学会へ提出してください。

■申請書送付先

〒 102-0072　千代田区飯田橋 2-11-5
人材開発ビル 4 階
日本分子生物学会 国際会議支援・選考委員会　御中
TEL：03-3556-9600
E-mail：info@mbsj.jp

■締切期日　2015 年 2 月 27 日㈮（必着）

■スケジュール（開催補助金の交付）
○ 2015 年 2 月 27 日：応募締切
○ 2015 年 3 月～ 4 月：選考
○ 2015 年 5 月：補助金の交付（予定）

■選　考
国際会議支援・選考委員会が選考に当たり、理事長承認のもとに決定します。
（＊ 2015 年 1 月より第 19 期新理事会に移行します。本事業の審査についても、第 19 期理事会内に設置されます「国際会議支援・選考委員会」がその選考の任にあたります。委員会構成は決まり次第、学会 HP でお知らせいたします。）

分子生物学会による、国際会議支援システム（参加登録～演題受付～カード決済／ Web 運用）利用のご案内

分子生物学会では、日本発の国際会議を学会が支援するために経済的支援を行うことに加え、国際会議を開催する研究者の事務的な負担を減らすため、支援システム（JTB 西日本による国際会議トータル支援システム / Web 運用）をご用意しております。国際会議支援の詳細は同公募要項の中に書かれているとおりですが、同支援事業の応募とは別に、システムのみを使用されたいとの希望者につきましては、分子生物学会の会員であれば同額での利用が可能です。

システムのみを使用されたい場合は、学会事務局（分子生物学会 国際会議支援システム・システム利用係り E-mail：info@mbsj.jp）まで E-mail にて、開催概要と連絡先を明記のうえ、お申込みください。（一旦、学会を経由してから、JTB 西日本の担当者をご紹介します）

《支援システムの概要》
本学会が JTB 西日本と長期契約を交わしたことにより、JTB 西日本による国際会議トータル支援システムを通常より割安価格で利用できます。

①基本システム代金：23 万円（事前参加登録受付・演題投稿受付・クレジットカード決済等の基本システム設定）
②オプション / メイン HP 代金:25 万円(全体デザイン・ページレイアウト・サーバ管理 12 ケ月・更新メンテナンス 12 ケ月)
③オプション / オンライン査読システム：8 万円
④オプションその他、が利用できます。（メニュー詳細については、一旦、学会を経由した後、JTB 西日本の担当者が説明いたします）

なお、この支援のみを受ける場合も、分子生物学会の支援（システム利用）を受けたことを当該会議の HP、要旨集などに明記いただきます。

学術賞、研究助成の本学会推薦について

本学会に推薦依頼あるいは案内のある学術賞、研究助成は、会報 No.108（6 月号）および学会 HP に一覧として掲載しております。そのうち、応募にあたり学会等の推薦が必要なものについての本学会からの推薦は、賞推薦委員会または研究助成選考委員会の審査に従って行います。応募希望の方は、直接助成先に問合わせ、申請書類を各自お取寄せのうえ、ふるってご応募下さい。

本学会への推薦依頼の手続きは次の通りです。

1. 提出物

1)本申請に必要な書類（オリジナルおよび募集要項に記載されている部数のコピー）

2)本学会の選考委員用および学会用控に、上記申請書類のコピー計 6 部

3)申込受付確認のための返信封筒（返信用の宛名を記入しておいて下さい）

4)論文（別刷は各種財団等応募先の必要部数をご用意下さい。委員会用の論文は不要です）

2. 提出先

※賞推薦についての送付先

日本分子生物学会・賞推薦委員長　一條　秀憲

〒 102-0072　千代田区飯田橋 2-11-5

人材開発ビル 4 階

日本分子生物学会事務局気付

※研究助成についての送付先

日本分子生物学会・研究助成選考委員長　月田早智子

〒 102-0072　千代田区飯田橋 2-11-5

人材開発ビル 4 階

日本分子生物学会事務局気付

3. 提出期限

財団等の締切りの 1 カ月前まで。提出期限後に受取った場合や、提出書類が不備な場合は、選考の対象にならないことがあります。推薦手続きのことでご不明な点がありましたら、学会事務局までお問合わせ下さい。

※各種学術賞（学会推薦）に関する留意事項

- 委員会の内規により、外部財団等の各種学術賞への推薦は、原則として一人につき年度あたり 1 件となっておりますので、ご了解ください。
- 重複申請があった場合、すでにある賞等の推薦が決定されている候補者は、それ以降審査する他の賞等の推薦候補者として原則的に考慮いたしません。応募に際し、ご留意くださるようお願いします。

※研究助成（学会推薦）に関する留意事項

学会推薦した会員が財団等の研究助成対象者となった場合には、その研究成果を将来、学会誌「Genes to Cells」に論文あるいは総説として発表して頂くように要請いたします。

応募に際しては、その旨をご了解くださるようお願いします。

第 18 期役員・幹事・各委員会名簿

理事長　（任期：2013 年 1 月 1 日～ 2014 年 12 月 31 日）

大隅　典子（東北大・医）

副理事長

小原　雄治（遺伝研）

中山　敬一（九大・生医研）

理　事

阿形　清和（京大・理）
五十嵐和彦（東北大・医）
一條　秀憲（東大・薬）
上村　　匡（京大・生命）
岡田　清孝（自然科学研究機構 / 龍谷大・農研）
近藤　　滋（阪大・生命機能）
佐々木裕之（九大・生医研）
篠原　　彰（阪大・蛋白研）
田中　啓二（都医学研）
長田　重一（京大・医）
花岡　文雄（学習院大・理）
三浦　正幸（東大・薬）
山本　雅之（東北大・医）
荒木　弘之（遺伝研）
石川　冬木（京大・生命）
上田　泰己（東大・医）
大隅　良典（東工大・フロンティア研究機構）
後藤由季子（東大・薬）
相賀裕美子（遺伝研）
塩見美喜子（東大・理）
高橋　淑子（京大・理）
月田早智子（阪大・生命機能）
西田　栄介（京大・生命）
町田　泰則（名大・理）
山本　正幸（基生研）
渡邊　嘉典（東大・分生研）

監　事　郷　　通子（情報・システム研究機構）、永田　恭介（筑波大）

幹　事

庶務幹事　石野　史敏（医科歯科大・難治研）、本間美和子（福島県立医大・医）
会計幹事　後藤由季子（東大・薬）
編集幹事　上村　　匡（京大・生命）
広報幹事　荒木　弘之（遺伝研）、金井　正美（医科歯科大・実験動物センター）
集会幹事　武田　洋幸（東大・理 / 第 36 回年会）、塩見美喜子（東大・理 / 第 37 回年会）

第 18 期執行部　大隅理事長、石野庶務幹事、本間庶務幹事、荒木広報幹事、金井広報幹事、小原副理事長（オブザーバ）

Genes to Cells 編集長　柳田充弘（沖縄科学技術大学院大学）

賞推薦委員会　一條秀憲（委員長）、五十嵐和彦、相賀裕美子、長田重一、花岡文雄

研究助成選考委員会　月田早智子（委員長）、大隅良典、佐々木裕之、高橋淑子、町田泰則

国際会議支援・選考委員会　西田栄介（委員長）、上田泰己、岡田清孝、田中啓二、三浦正幸

キャリアパス委員会　塩見美喜子（委員長）、石井　優、井関祥子、岩崎　渉、小野弥子、五島剛太、小林武彦、斎藤通紀、佐藤　健、白髭克彦、東山哲也、柳田素子

研究倫理委員会　小原雄治（委員長）、岡田清孝、塩見美喜子、篠原　彰、町田泰則

生命科学教育　篠原　彰（担当理事）

生命倫理懇談会　〈検討中〉

「日本分子生物学会 若手研究助成 富澤純一・桂子基金」基金運営委員会（任期：2010 年 10 月 1 日～ 2014 年 12 月 31 日）
山本正幸（委員長）、阿形清和、岡田清孝、近藤　滋、塩見美喜子、嶋本伸雄、谷口維紹、大隅典子（職指定委員）

日本分子生物学会　賛助会員一覧

（2014 年 10 月現在）

アサヒグループホールディングス株式会社 イノベーション研究所
株式会社エー・イー企画
科学技術振興機構 バイオサイエンスデータベースセンター
科研製薬株式会社 創薬研究部
協和発酵キリン株式会社 研究本部研究推進部
コスモ・バイオ株式会社 開発部
株式会社サン・フレア
第一三共株式会社 バイオ創薬研究所
タカラバイオ株式会社 事業開発部
株式会社ダスキン 開発研究所
田辺三菱製薬株式会社 研究本部研究企画部
東洋紡績株式会社 ライフサイエンス事業部
株式会社トミー精工
ナカライテスク株式会社 マーケティング部広報課
日本甜菜製糖株式会社 総合研究所第二グループ
日本ベクトン・ディッキンソン株式会社 BD バイオサイエンス
日本たばこ産業株式会社 植物イノベーションセンター
日本たばこ産業株式会社 たばこ中央研究所
浜松ホトニクス株式会社 システム営業部
富士レビオ株式会社 研究開発管理グループ
フナコシ株式会社
株式会社ボナック
三菱化学株式会社 経営戦略部門 RD 戦略室
ヤマサ醤油株式会社 R & D 管理室
ライフテクノロジーズジャパン株式会社
ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社 AS 事業部
湧永製薬株式会社 湧永満之記念図書館
ワケンビーテック株式会社 学術部

（28 社、50 音順）

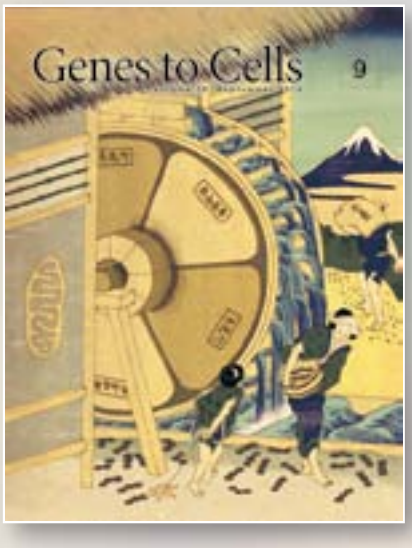
■第 37 回（2014年）日本分子生物学会年会 公式サイト
URL: http://www.aeplan.co.jp/mbsj2014/

■日本分子生物学会 Facebook 公式アカウント
URL: http://www.facebook.com/mbsj1978/

特定非営利活動法人
日本分子生物学会　事務局

〒 102-0072　東京都千代田区飯田橋 2-11-5
人材開発ビル 4 階
TEL: 03-3556-9600　FAX: 03-3556-9611
E-mail: info@mbsj.jp

Genes to Cells



Published on behalf of the Molecular Biology Society of Japan

Edited by: Mitsuhiro Yanagida
Frequency: Monthly | **Impact Factor:** 2.855

日本分子生物学会の学会誌Genes to Cellsは、分子生物学の優れた研究成果を掲載し、著者にとって有益な学術情報や、先見性の高い最新の研究情報を提供しています。全世界で4,000以上の機関で読まれており、年間333,000件以上のダウンロード数を誇ります。
是非Genes to Cellsにご投稿ください。

Genes to Cells　投稿の利点

- わかりやすく便利なオンライン投稿システム
- 出版までの過程をお知らせするAuthor Servicesをご利用いただけます
- 早期出版EarlyViewサービスにより、最新号への収載を待たずにオンラインで出版されます
- 出版後6ヵ月経過した全論文が無償公開となり、世界中からアクセス可能になります
- 出版されると直ちに無償公開となるオープンアクセスオプション『OnlineOpen』（有料）をご利用いただけます
- 2012年9月より、全ての総説は日本分子生物学会が費用を負担してOnlineOpenで公開中

オンライン投稿はこちら
http://mc.manuscriptcentral.com/gtc

2012年・2013年出版　引用数TOP論文　*2014年8月現在

Efficient TALEN construction and evaluation methods for human cell and animal applications (Volume 18, Issue 4)
Sakuma, T; Hosoi, S; Woltjen, K; Suzuki, K; Kashiwagi, K; Wada, H; Ochiai, H; Miyamoto, T; Kawai, N; Sasakura, Y; Matsuura, S; Okada, Y; Kawahara, A; Hayashi, S; Yamamoto, T

Structures of D14 and D14L in the strigolactone and karrikin signaling pathways (Volume 18, Issue 2)
Kagiyama, M; Hirano, Y; Mori, T; Kim, S.Y; Kyozuka, J; Seto, Y; Yamaguchi, S; Hakoshima, T

Beyond apoptosis: caspase regulatory mechanisms and functions *in vivo* (Volume17, Issue 2)
Kuranaga, E

ジャーナル閲覧ページ
www.wileyonlinelibrary.com/journal/gtc
日本分子生物学会の会員はオンラインジャーナルに無料でアクセスしていただけます。
ユーザー登録は学会事務局までお申し込みください。
日本分子生物学会事務局：info@mbsj.jp

登録後のアクセスに関するご質問は、
Wiley カスタマーサービスにて承ります。
Wiley カスタマーサービス：cs-japan@wiley.com

WILEY Blackwell

The Molecular Biology Society of Japan NEWS

日本分子生物学会 会報

(年 3 回刊行)

第 109 号 (2014年11月)

発　行——特定非営利活動法人　日本分子生物学会

代表者——大隅　典子